

1月25日(月)

2010年(平成22年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号

〒530-8251 電話(06)6345-1551

毎日新聞大阪本社

## 共に生きる

阪神大震災16年

# 教訓と体験 次代に

日中の若者が震災体験などを通じてどのように伝えていくかを考えるシンポジウム「阪神・淡路大震災と四川大地震からの教訓」が24日、神戸市中央区の神戸学院大であった。中国・四川省の高校生や日本の高校生や大学生ら約500人が参加した。

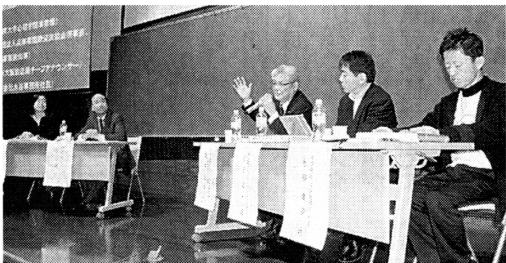
パネルディスカッションでは阪神大震災(95年)や中国・四川大地震(08年)にかかわった4人がそれぞれの取り組みなどを話し合った。被災地の子どもの笑顔を探り続けているデザイナーの水谷孝次さんは「子どもたちの笑顔は未来の希望」と取り組みの意味を説明。四川

## 後悔繰り返さないために

大地震で子どもたちの心のケアにあたった中国・西南大の王宗謨准教授は「子どもが明るくなると家庭が明るくなり、社会も活気を取り戻す」と応じた。

また、阪神大震災を現地でも伝えたNHK大阪放送局の住田功一チーフアナウンサーは「生々しい出来事も15年たつと歴史の一コマになってしまった」と警告。斎藤富雄元副知事は「震災では行政も何の準備もしていなかった。失わなくてもよい命をなくしてしまい、悔しい思いをした」と振り返り、「後悔を繰り返さないためにも何が自分ができるのか考えてもらいたい」

## 日中の学生参加 神戸でシンポ



震災での取り組みや若者に期待する事などを話し合う斎藤元副知事(右から3人目)ら一神戸市中央区の神戸学院大で

と訴えた。その後、学生らが3つの分科会に分かれ、支え合いや交流などをテーマに話し合った。

【近藤諭】